

「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会ニュース」
並木小学校閉校に伴う学校再編について

検討結果報告書を教育委員会に提出

光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会では、並木小学校を、「弥栄小学校」もしくは「光が丘小学校」のいずれかに学校再編をする検討を行ってまいりました。

この度、その検討結果をとりまとめた報告書を、令和6年5月10日(金)に、鈴木教育長に面会し、提出いたしました。



【会長・副会長で検討結果報告書を提出しました】

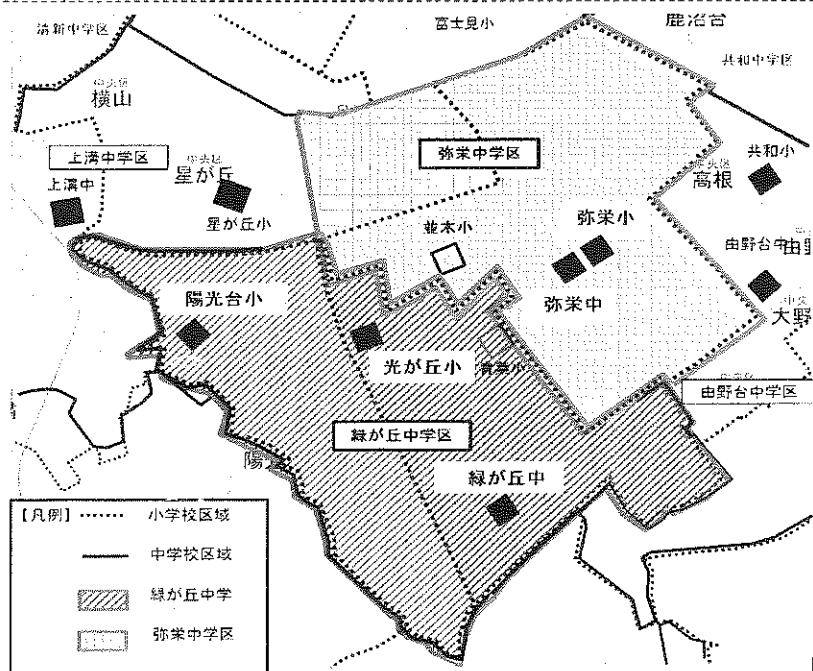
「並木小学校の学校再編」検討協議会での検討結果

- ・過小規模校※¹となることが予想されている並木小学校を閉校し、弥栄小学校に再編

※ クラス替えができない学年が発生する学校（小学校11学級以下、中学校5学級以下）

- ・再編した場合の並木小学校の児童の進学先は弥栄中学校
- ・通学区域の変更に伴って通学距離に課題が生じる区域に、指定変更許可区域※²の設定を検討

※ 指定された学校とは、別の指定した学校へ変更することができる区域



※カラー版は市ホームページや裏面のQRコードからもご覧いただけます。

裏面へ続きます

検討結果に至った理由

保護者の意見

▶ 保護者アンケートでは、「弥栄小学校への学校再編の方が良い」という回答が最も多い結果となっている。*

※ 保護者意向調査の結果 「弥栄小学校への再編の方が良い」 83%
「光が丘小学校への再編の方が良い」 6%
「どちらでもかまわない」 3%
「選べない」 8%

学校規模の適正化

▶ 将来的な過小規模校の発生を回避し、望ましい学校規模の実現が見込まれる。

学校施設の規模

▶ 学校施設の容量において、教室数は不足しない見込みである。

学校施設の規模

▶ 小学校と中学校の通学区域が一致しているため、より効果的な小中一貫教育が展開できる。

友人関係の継続

▶ 学校単位での再編のため、これまでの友達と別れることなく、関係性が継続できる。

通学区域の変更

▶ 令和7年度の学校再編時点で、並木小学校の通学区域の全てが弥栄中学校の通学区域になっているため、今回の学校再編に伴い、中学校の指定校には変更が生じない。

今後のスケジュール

- ▶ 今後、提出した検討結果報告書を踏まえ、教育委員会で並木小学校の再編時期を含めた対応方針が決まります。(※「令和〇年4月に学校再編」のように決まります。)
- ▶ 指定変更許可区域は、再編時期が決定後に、検討協議会で設定する区域や期間を協議していきます。なお、検討の結果、設定されないこともあります。

Q 再編時期を含めた対応方針はいつ決定するのか？

A 令和6年夏頃には決定できるよう、教育委員会で協議を進めていきます。

Q 再編時期のおおよその目安はあるのか？

A 学校再編にあたっては、学校間交流や施設改修などを実施する準備期間として、2年から3年が必要になるため、令和9年度以降になると想定しています。

第19回 検討協議会

【日時】令和6年秋頃を予定

【場所】(仮)光が丘公民館 大会議室

【内容】並木小学校の学校再編について、再編時期を含めた対応方針の協議結果を報告します。

※どなたでも傍聴可能です。

これまでの検討経過や検討協議会ニュースのバックナンバーは次の方法でご確認いただけます。

1 市ホームページ

※右記の二次元コードからも該当ページへアクセスできます。

2 ①市の行政資料コーナー、②光が丘公民館、陽光台公民館、

③関係小・中学校

